



故從三位勳三等森卷吉勳章加授、件  
 右謹テ裁可ヲ仰ク  
 昭和十四年七月二十日  
 内閣總理大臣男爵平沼騏一郎



内

閣

227



賞勳局 二八五

文部省 二二二

昭和十四年七月十八日 内閣書記官長

内閣書記官長

昭和十四年七月二十日

昭和十四年七月二十日 賞勳局 七月二十日 裁可

内閣總理大臣 位

賞勳局總裁



故從三位勲三等森卷吉ハ明治四十二年八月第一高等學校教授ニ任官以來松本高等學校長ヲ經テ昭和四年七月第一高等學校長ニ任セラレ同十二年四月退官セリ其ノ第一高等學校在職中克ク校風ノ刷新思想ノ善導ニ碎身シ剴切ナル措置ヲ講シテ校紀ノ肅正ニ努メ又同校舎

賞勳局

駒場移轉ニ關シテハ幾多ノ困難ヲ排シテ遂ニ之ガ實現ヲ見ルニ至ラシメタ多年ノ懸案ヲ解決セシメタルハ同人ノ力ニ俟ツトコロ多シ其ノ他同校ニ文部省ヨリ委囑サレタル清國留學生ノ教養ニ關シテハ當初ヨリ其ノ教育ニ當リ後制度ノ完備教育ノ充實ヲ諮リテ終始能ク留學生ノ指導薰育ニカメタル等功績顯著ノ者ニ候處本月十二日死去セル趣ニ付此際特ニ同日附テ旭日中綬章ヲ加授セラレ度此段允裁ヲ仰ク



故從三位勳三等 森 卷 吉

右ハ明治三十七年七月東京帝國大學文科大學英文學科ヲ卒業シ幾何  
 モナク第一高等學校ヨリ清國派遣ノ官費留學生ノ授業ヲ囑託セラレ  
 四十二年八月第一高等學校教授ニ任ゼラレ勤績殆ド二十三年ニ及ビ  
 昭和二年八月松本高等學校長ニ拔擢セラレタリ、而シテ同校在職二  
 年ノ後同四年七月再ビ多年緣故ノ第一高等學校長ニ轉任シ十二年四  
 月願ニ依リ其ノ官ヲ免ゼラル、尙挂冠後懇望セラレテ法政大學文學  
 部長同高等師範部長ノ要務ヲ執リ益々育英ノ功ヲ積ム、然レバ其ノ  
 生涯ハ全ク教育界ニ終始シ殊ニ其ノ大部分ハ之ヲ第一高等學校ニ捧  
 ゲタルモノトス  
 同人ノ教育者トシテノ聲價ハ夙ニ定評ノ存スルトコロニシテ前記第

文 部 省

一高等學校教授ニ任用セラレテ英語ヲ講ジ大正十一年一月官命ニ依  
 リ歐米ニ留學シテ英語、英文學及語學教授法ヲ研究スルコト二ケ年  
 歸朝後大正十四年早クモ英語ノ主任教授トナリ一高俊英ノ教導ニ當  
 ルト共ニ幹事トシテ庶務部ニ在リテ庶務會計ヲ監理シ力メテ校長ヲ  
 補佐シ輝カシキ一高ノ傳統ヲ守リ校運ノ發展ニ貢獻セルトコロ多シ  
 斯クテ漸ク其ノ識見手腕ノ卓出セルヲ認メラレ昭和二年八月松本高  
 等學校長ニ簡拔セラレ同校在職約二年校風頓ニ上リ一校統率ノ大器  
 ナリテ許サルルニ至リ遂ニ昭和四年七月高等學校ノ最右翼一高第十  
 八代ノ校長トシテ同人教育界ニ出身ノ搖籃地ニ再ビ登場セリ、當時  
 我國ノ思想界ハ混沌トシテ青年學徒ハ其ノ歸趨ニ迷ヒ稍モスレバ左  
 傾ノ思潮ニ犯サレ更ニ實行運動ニサヘ奔ルノ事例尠カラズ、職ニ教  
 育ノ任ニ在ル者殊ニ天下ノ逸才ヲ收容シ帝都ニ位置スル一高ノ校長



トシテ其ノ指導ニ腐心セルトコロ容易ナラザルモノアリ、即チ同人ハ自ラ進ンデ陣頭ニ立チ其ノ確守セル國家主義ノ信念ノ下ニ部下教職員ヲ指揮督勵シ校風ノ刷新、思想ノ善導ニ碎身シ事毎ニ剴切ナル措置ヲ講ジ克ク校名ノ眞價ヲ保持シ爾後年ト共ニ益々校紀ノ肅正ヲ見タルハ校長タル同人ノ一勳功ト稱スルヲ得ベシ、同人ハ一高校長ノ職ニ在ルコト七年十ヶ月ニ及ビ同校歴代校長中期間ヨリ見ルモ最長ノモノニシテ從テ感化薰染ノ功亦察スベキナリ

今暫ク松本高等學校長時代ノ二年ヲ除キ一高在任全期三十年有餘ノ業績ヲ稽フルニ約五年間、清國官費留學生ノ補導時代ヲ第一期トシ次ニ同校教授トナリ英語ノ教官トシテ或ハ其ノ主任教授トシテ或ハ又幹事トシテ校務ニ當リタル十八年間ヲ第二期トシ最後校長時代ヲ第三期トナスヲ得ベシ、而シテ其ノ第一期ハ日露戰役後ニ當リ支那

## 文 部 省

青年ノ勝利國日本ヘノ憧憬ニ依リテ留學生一萬ヲ突破セル時代ニシテ實ニ近年ニ於ケル支那トノ文化交渉ノ初期ニ際會シ中國革命ニ與ヘタル影響誠ニ甚大ナルモノアリ、支那ハ之ヲ契機トシテ爾來近代國家建設ヘノ活動ヲ始メタルハ世人ノ記憶ニ新ナルトコロナルガ同人ハ此ノ時官費留學生ノ訓育ニ當リ又之ガ發展シテ今日日本邦唯一ノ滿洲國及中華民國ノ爲ノ官設高等學校タル特設高等科トナリタルモノナリ、第二期ハ少壯教授トシテ研究ニ教壇ニ校務ニ最モ多面ニ活躍セル時代ニシテ又中等初等ノ英語教科書ノ著述ニ依リテ我國英語教育一般ニ對シ寄與セルトコロ多ク就中

Sketch Book 譯註

Light Readers 5卷

Girls Royal Readers 5卷



New Standard Side Readers 3卷  
Asahi Readers (高等小學用) 2卷  
New Light Readers 5卷

等現ニ良教科書トシテ多數ノ學校ニ採用サレツツアリ、而シテ同校トシテ劃期的大事業タル駒場移轉ノコト亦此ノ時ヨリ議ニ上リタリ第三期校長時代ハ同人ノ愈々人格玉成ノ晩年ニ屬シ此ノ間ニハ本務ノ外體育運動審議會委員、高等學校諸問題ニ關スル調査委員、學生思想問題調査委員會委員、野球統制臨時委員、高等學校高等科教授要目改正委員等トシテ常ニ一高校長ナル事實上ノ特殊地位ニ在リテ盡瘁格別ナルヲ認ム

尙同人ガ一高在職全期間ヲ通ジ其ノ業績ノ特筆スベキモノノ中駒場移轉並特設高等科設置ニ關シテハ別添調書ノ如ク同人ノ辛勞功績洵

文 部 省

ニ著シキモノアリ

如斯同人ハ我國官私高等教育ニ從事スルコト三十四年有餘、此ノ間又一般教育界ニ貢獻セルトコロ多ク功績極メテ較著ナルヲ認メラルル處本月十二日病ヲ以テ薨去セルニ付此ノ際特ニ生前ニ週リ勳章加授ノ榮ヲ與ヘラルル様御詮議相成度

右稟申ス

昭和十四年七月十四日

文部大臣男爵 荒 木 貞 夫



内閣總理大臣男爵 平 沼 騏 一郎 殿



森 卷吉功績調書

駒場移轉ニ関スル功績

駒場移轉ニ関スル東大一高兩校ノ交渉開始ハ大正十年ニ始マリタレドモ、遠慮ナシテ道マザリシハ一高ノ向院ニ對スル撞憬憂着ノ念熾烈ナルモノナラザルニ依ルハ言フ様ナド。爾來評餘曲折ヲ經テ議積々具體化セントシツ、ナル時、突如大正十二年九月ハ大震災ニ遇ヒ、為ニコノ交渉ハ一ト先ヅ打切ナレリ。然レニ亦大例ニ於テハ此ノ大震災ニヨリテ急速ニ一高ノ敷地ヲ望ムニ至リ、文部當局モ亦十三年一月ノ震災後復興豫算ノ關係上之ヲ一高ニ量ル。乍去一高側トシテハ未ダ一回モ生徒及先輩ニ其ノ内容ヲ公示セシ事ナク、大震災ニヨリテ全ク放棄サレタルモノト思ヒ居ル先ナレバ、此ノ急劇ナル希望ニ對シテハ實際問題トシテ不可能ナル旨ヲ早陳シ、移轉問題ハ再々停頓ノ此ナキニ至ル。

森卷吉ガ公ニシテ名ヲ移轉問題ニ連スルハ此年即チ大正十三年九月十五日、庶務分掌トシテ關係ニタルニ始メルモ、實ハ既ニ此ノ大問題ニハ當初ヨリ多大ノ關心ヲ持チ、中里校長時代能ク教授間ノ協議ヲ統制シ來ルタルヲ諒メテ、校摺幹部ノ一人トナリタルナリ。斯ルハナクモ豫算ノ成立、交渉ハ帝大トノ向ニ内滿進捗シ、九月廿六日豫算書ノ交換、調印ヲ了シ、愈々實行ニ着手スル段取トナレリ。大正十四年三月庶務分掌ヨリ幹事トナルニ及ビ、或ハ帝大ニ、或ハ駒場ニ、東急西走、

寄宿寮建物ノ位置ヲ定メ、運動場ノ位置、境界線ノ設定、道路ノ設定、田溝地ノ地盤修理等、専ラ基礎的ノ工事ニシテ盡力シ、昭和二年八月松本高校長ニ轉ズルマデ、殆ド一衛ニ當リテ熱誠ニ傾ケルハ、當事者ノ等シク知ルコトナリ。昭和四年一高校長ニ就任セルト、移轉豫算ハ繰延ノ上ニ削減セラレ、為ニ移轉反對ノ声スラ起ルニ至レルヲ、氏ハ之ヲ生徒ヲ慰撫スル等ヲ只管促進運動ニ盡瘁シツ、アリシガ更ニ昭和五年豫算繰延ノ結果、移轉ニ二年ノ延期ヲ見、昭和十年ナラデハ移轉シ能ハザルコトナレリ。校長トシテ此間ニ處スル心痛察知スルニ難カラズ。當事者トノ向ニ折衝コナス一方、生徒間ニ於テハ學校當局ノ移轉實行ノ聲明ニ信ヲ措カズ、依然移轉反對ノ聲盛ナリ耳ニ在ルヲ以テ、生徒委員ト再三會見シテ意見疎通ヲ計リ、相違ニ信何協力ナリ度移轉音現ニ向テ邁進セントコトヲ誓フ。此時校長ハ生徒ニ對シテ「精神の移轉準備ノ重大ナル旨ヲ力説セリ。乍然一般寮生ハ學校當局ノ會々事情ヲ窺ハズ能ハズ、津當局ハ漫然十年移轉ヲ口ニシテミト曲解シテ驕然トシテ居リ、其他生徒實行委員ノ學校當局ニ對シテノ要求、複雜多岐ニ涉リ、トモモ給糾ヲ未ダシテ状態ニ隔ル。サレド校長、是等質疑ニ對シテハ一々懇切ニ應答シテ後モ、生徒ヲ能ク心服セシム。斯クテコノ向看トシテ工事邁進シ、



生徒又彌生テ丘ノ一高敷地ニ帝大農學部校舍ノ建築ヲナスソノ騒音ニ假寓生  
活ノ慌シカラ痛感スルト共ニソバ口新向陵憧憬ノ念ヲ起サシムルアリ、漸ク移轉反  
對ノ声ヲ収ム。

昭和十年七月、多年ノ努力空シカラズ、幾多ノ難關ヲヨク克服シ、同月十五日

御眞影ヲ駒場ニ奉遷シ、茲ニ數十年來ノ懸案、全ク終了セリ。森卷吉ノ  
庶務分掌ヨリ幹事ヲ經テ校長在任中ニ、終了ヲ見タルハ、文部當局ノ英断ニ素  
ヨリ前、校長以下當事者諸氏ノ努力ノ賜ナルト共ニ前校長森卷吉ノ功績モ  
又没スベカラザルモノアリト認メラル。因ニ森卷吉校長トシテノ勤績年數モ  
歴代校長中第一位ノ長キニ涉ル。

### 特設高等科設置ニ関スル功績

明治廿六年十二月本校文部省ヨリ清國北京大學堂派遣ノ留學生三十餘名ノ  
教養ニ関スル一切ノ事務ヲ委嘱セラレ、翌廿七年一月右留學生ノ着校入寮ヲ俟  
ビテ翌二月ヨリ、授業ヲ開始セリ。即チ森卷吉ハ明治廿七年九月英語授業ヲ  
囑託セラレ、頭初ヨリ留學生教育ニ關係ス。而シテソノ間、或ハ日語ノ習熟ニ一段  
ノ進歩ヲ為サレメンガ為、夏期休暇ヲ廢シ暑期勉學ニ適スル信州輕井沢ニ於テ

授業ヲ行ヒ、或ハ留學生ノ旅情ヲ慰メ、且本邦ニ對スル認識ヲ深カラシメン為市  
内ヲ巡覽セシメ、近隣修學旅行ヲ企テ、留學生ト雖モ當校制服ヲ着用セシムル等  
本邦生徒ニ對スルト異ラザル一般ノ取締ヲ行ヒ、寄宿寮ニ在リテハ等シク寮規  
ニ従ハシムルコト、或ハ又本邦生徒ト留學生トノ交情ヲ温ムル為、寄宿寮ノ聚會  
アル毎ニ留學生ノ列席スルコトヲ例トナス等留學生ノ為ニ頗リ意ヲ用ヒシニル。

當初特設豫科ニ關シテハ別ニ規程ヲ設ケズ適宜本校規則ニ準ジテ處理レ  
タリシガ、明治四十一年四月本科ノ外別ニ豫科ヲ置キ學科課程ヲ定メ、コニ制度  
ヲ設ケタルハ森卷吉ノ關係スル功績、一ニ舉グルヲ得ベシ。サレド右規程  
ハ内規ニシテ、留學生ノ入學時季ニ際スルトキハ入學試驗科目及ソノ程度、入學ノ  
手續等ヲ問合セサル者多ク、不便尠カラズ、森卷吉之ニ鑑ミル所アリ、正式  
ニ特設豫科豫科規程制定ニ付文部省ニ申請シテ許可セラレ、コレ森卷吉ノ幹  
事時代ニシテ專ラソノ衝ニ當リテ只管制度、改善、授業ノ充實ニ努力セラレシガ  
豫科ハ本邦高等學校高等科ニ入學セント欲スル支那留學生ノ為ニ一年ノ予備教  
育ヲ授クルノミナラズ從ツテ教育狀況モ予備教育的ノ嫌ヒナキニ非ズ、昭和七年森  
卷吉校長時代、本格的ニ留學生教育ノ事ニ當ル必要ヲ感ズ、文部當局ニ具  
申ス。文部當局又之ヲ認メ森卷吉ニ「研究ヲ命ズ、即チ鋭意研究調査ノ



結果 尚ほ諸方面ノ説明、努メ従来、特設科課程シ廢止シ新、特設  
 高等科シ設置シ修業年限ヨリ三年ニ延長シ、高等専攻校高等科ノ程度ニ  
 同シ高等普通教育ヲ授クルコト、レ文部當局、許可ヲ得テ之ヲ實施セリ。九年  
 十二月ニ本校特設高等科卒業生ハ文部省令ヲ以テ高等専攻校高等科卒業  
 生ト看做ハレ、明治三十年三月以後、卒業生ハ進デ本校、帝國官公立大  
 學ニ入学スルノ資格ヲ得セシメタル、尚更、特設高等科生徒、努力充實シ期  
 スル為豫科設置、必要ヲ認メ、其ノ計画ヲ樹立シ、遂ニ之ガ實現ヲ見、現行制  
 度ノ如ク、愈モ豫科一年、高等科三年計ニテ、教育シテマコトヒシ、  
 完璧シ期シタリ。コレヲ明治末年豫科設置、當初、比マレバソノ制度、完  
 備セリ、ソノ教育ノ周到充實セリ、眞ニ隔世ノ感ヲ有リト謂フベク、ソノ功  
 績、總括スルニ、ホ林 卷言ハ、留學生、生、親ニシテ且育テ、親ト云  
 フベク、誠ニ終始一貫留學生ノ為ニ努力シ、其ノ功績蓋シ永クニ記  
 サルベキモノト思ヒテララル。



年	月	日	事	項	官	職	名
明治三十九	九	月	第四高等學校ニ入學	官	職	名	森 卷 吉
明治三十四	七	月	同校卒業				
明治三十七	七	月	東京帝國大學文科大學ニ入學				
明治三十七	七	月	同英文學科卒業				
明治三十七	七	月	清國官費留學生英語授業ヲ囑託ス	第	一	高	等
明治三十七	七	月	英語ノ授業ヲ囑託シ報酬トシテ一ケ年	第	一	高	等
明治三十七	七	月	金九百圓給與	第	一	高	等
明治三十七	七	月	任第一高等學校教授	第	一	高	等
明治三十七	七	月	敍高等官七等	第	一	高	等
明治三十七	七	月	九級俸下賜	第	一	高	等
明治三十七	七	月	敍從七位	第	一	高	等
明治三十七	七	月	高等官官等俸給令改正	第	一	高	等
明治三十七	七	月	敍敍高等官六等	第	一	高	等
明治三十七	七	月	敍正七位	第	一	高	等
明治三十七	七	月	陸敍高等官五等	第	一	高	等
明治三十七	七	月	八級俸下賜	第	一	高	等
明治三十七	七	月	敍從六位	第	一	高	等
明治三十七	七	月	大禮記念章授與	第	一	高	等
明治三十七	七	月	陸敍高等官四等	第	一	高	等
明治三十七	七	月	敍正六位	第	一	高	等
明治三十七	七	月	七級俸下賜	第	一	高	等
明治三十七	七	月	六級俸下賜	第	一	高	等
明治三十七	七	月	高等官官等俸給令改正	第	一	高	等
明治三十七	七	月	陸敍高等官三等	第	一	高	等
明治三十七	七	月	六級俸下賜	第	一	高	等
明治三十七	七	月	敍從五位	第	一	高	等
明治三十七	七	月	敍從五位	第	一	高	等
明治三十七	七	月	敍從五位	第	一	高	等

第一高等學校







昭和十一年  
 七月  
 二十一日

昭和十一年八月一日	敍正四位	宮内省
十一月二十五日	高等學校高等科教授要目改正委員ヲ囑託ス	文部省
十二月二十二日	依願免本官	内閣
"	職務勲賜ニ付爲其金六千圓下賜	文部省
"	敍從三位	宮内省
五月五日	特旨ヲ以テ位一級被進	宮内省
十四日七月十日	薨	宮内省
第一高等學校		
昭和十一年九月一日	陞敍高等官一等	内閣
九月二十四日	体育運動審議會委員被仰付	内閣
九月三十日	賜一級俸	内閣
七月二日	滿洲國及ビ中華民國へ出張ヲ命ス	文部省
七月二日	學生思想問題調査委員ヲ囑託ス	文部省
七月十六日	敍勳三等授瑞寶章	賞勳局
七月十六日	野球統制臨時委員ヲ囑託ス	文部省
七月一日	敍從四位	宮内省
六月一日	高等官官等俸給令改正	宮内省
五月三十一日	高等學校諸問題ニ關スル調査委員ヲ囑託ス	文部省
五月三十一日	体育運動審議會委員ヲ委囑ス	文部省
四月二日	任第一高等學校校長敍高等官二等	内閣
"	賜三級俸	文部省
"	賜二級俸	文部省

めくれず

237



年	月	日	事	項	官	衙	名
明治三十九	九	月	第四高等學校ニ入學	官	衙	名	
明治三十四	七	月	同校卒業				
明治三十七	九	月	東京帝國大學文科大學ニ入學				
明治三十七	九	月	同英文學科卒業				
明治四十一	九	月	清國官費留學生英語授業ヲ囑託ス 英語ノ授業ヲ囑託シ報酬トシテ一ケ年 金九百圓給與	第 一 高 等 學 校 高	第 一 高 等 學 校 高	第 一 高 等 學 校 高	
明治四十二	八	月	任第一高等學校教授	第 一 高 等 學 校 高	第 一 高 等 學 校 高	第 一 高 等 學 校 高	
明治四十二	八	月	九級俸下賜	文 部 省	文 部 省	文 部 省	
明治四十二	八	月	敍從七位	宮 內 省	宮 內 省	宮 內 省	
明治四十三	四	月	高等官官等俸給令改正	宮 內 省	宮 內 省	宮 內 省	
明治四十四	三	月	陸軍高等官六等	宮 內 省	宮 內 省	宮 內 省	
明治四十四	三	月	敍正七位	宮 內 省	宮 內 省	宮 內 省	
明治四十四	三	月	陸軍高等官五等	宮 內 省	宮 內 省	宮 內 省	
明治四十四	三	月	八級俸下賜	文 部 省	文 部 省	文 部 省	
明治四十四	三	月	敍從六位	宮 內 省	宮 內 省	宮 內 省	
明治四十四	三	月	大禮記念章授與	賞 勳 局	賞 勳 局	賞 勳 局	
明治四十四	三	月	陸軍高等官四等	宮 內 省	宮 內 省	宮 內 省	
明治四十四	三	月	敍正六位	宮 內 省	宮 內 省	宮 內 省	
明治四十四	三	月	七級俸下賜	文 部 省	文 部 省	文 部 省	
明治四十四	三	月	六級俸下賜	宮 內 省	宮 內 省	宮 內 省	
明治四十四	三	月	高等官官等俸給令改正	宮 內 省	宮 內 省	宮 內 省	
明治四十四	三	月	陸軍高等官三等	宮 內 省	宮 內 省	宮 內 省	
明治四十四	三	月	六級俸下賜	文 部 省	文 部 省	文 部 省	
明治四十四	三	月	敍從五位	宮 內 省	宮 內 省	宮 內 省	

第一高等學校

族府 東京府  
籍縣  
生年 明治十年五月三日  
姓名 森 卷 吉  
官衙名







